

事業所名

放課後等ディサービス 花笑み

支援プログラム

作成日

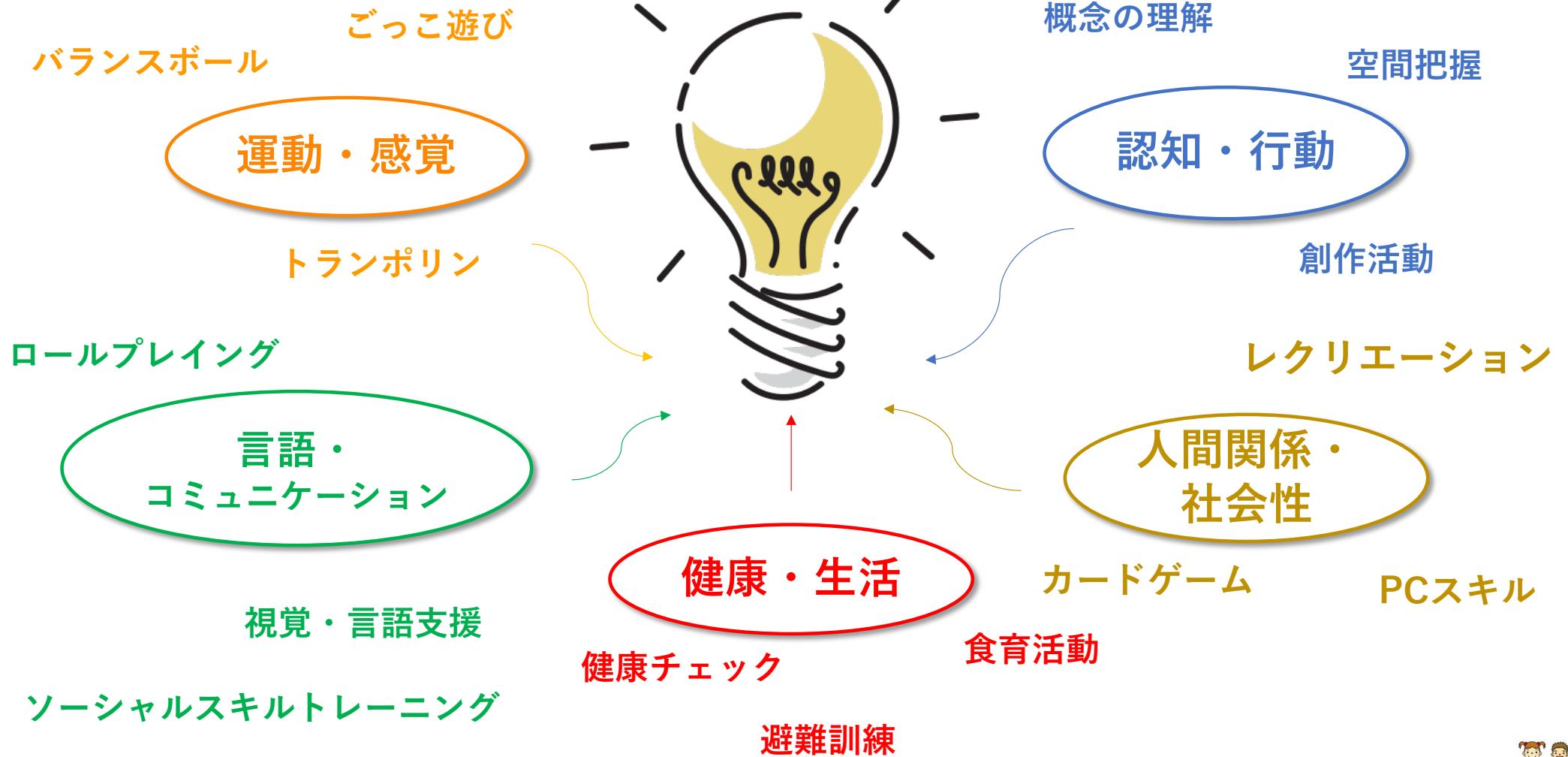
令和7 年

2 月

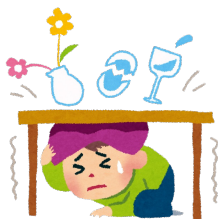
1 日

法人（事業所）理念		よく遊び・よく笑い・よく学ぶの3本柱を基本理念として生きる力を伸ばしていく						
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の安全・安心を第一に、快適で満足していただける空間を提供します。 ・利用者様を尊重し、社会的自立できる力を育みサービスを提供します。 ・利用者様の気持ちを大切に、笑顔で過ごせる時間を提供できるように心がけ、気持ちよく出会えるようにします。 						
営業時間		10 時	00 分から	19 時	00 分まで	送迎実施の有無	あり なし	
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の把握 ・生活リズムや生活習慣の形成 ・基本的な生活スキルの獲得 詳細は下記参照(P4)						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢と運動・動作の向上 ・姿勢と運動・動作の補助手段の活用 ・保有する感覚の総合的な活用 詳細は下記参照(P5)						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・認知の発達と行動の習得 ・空間・時間、数等の概念形成の習得 ・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 詳細は下記参照(P6)						
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の形成と活用 ・言語と受容と表出 ・コミュニケーションの基礎的能力の向上 ・コミュニケーション手段の選択の活用 詳細は下記参照(P7)						
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との関わり（人間関係）の形成 ・自己の理解と行動の調整 ・仲間づくりと集団への参加 詳細は下記参照(P8)						
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎の実施 ・送りの時に、保護者に支援の内容と子どもの様子を分かりやすく伝える ・延長支援の実施 ・保護者から要請があった場合、また支援の中で気になることがあった場合、相談の時間を設ける 			移行支援		<ul style="list-style-type: none"> ・公園・児童館等で地域の子供たちと遊ぶ ・通常級の子供地と関係が深まってきた子については、保護者と相談の上、来所日数を減らし、地域での放課後を過ごす時間を増やす 	
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> ・学校・児童相談所・行政機関とのケース会議を開催 ・学校での引き渡しの際、子どもの様子や体調や食欲などを聞き、支援にいかす ・必要に応じて学校を訪問し、情報の共有や具体的な関わり方のモデルを示す 			職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・各種社内研修の実施（避難訓練・虐待防止・安全管理・BCP・感染症対策） ・外部講師による研修（例：医師による怪我の応急処置の講義） ・新人研修の実施（仕事への向き合い方・記録の書き方・社会人としてのマナーなど） ・職員の資格取得サポート（受験費用の負担等）/外部研修への受講費サポート 	
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> ・誕生会の実施 ・卒業式 ・季節の行事（鏡開き・豆まき・節分・七夕・夏祭り・お月見・ハロウィン・クリスマスなど） ・遠足（博物館・動物園・防災館など） 						

～療育支援プログラム～



健康・生活



ねらい

- 健康状態の把握
- 生活リズムや生活習慣の形成
- 基本的な生活スキルの獲得



支援内容		実例場面
a) 健康状態の把握	健康な心と体を育て自ら健康で安全、安心な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。	<ul style="list-style-type: none"> • 心身の健康把握 (体温測定・気分の把握など)
b) 健康の増進	睡眠、食事、排泄との基本的な生活のリズムを身に付けられるように支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めると共に、楽しく食事ができるように配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自助道具に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。	<ul style="list-style-type: none"> • 生活リズムの把握 • おやつ作り、調理プログラムの実施を含む食育 • ADL面やトイレトレーニングを含むソーシャルスキルやライフスキルトレーニング
c) 基本的な生活スキルの獲得	身の回りを清潔にし、食事、着衣の着脱、排泄等の生活に必要な技能を獲得できるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> • 避難訓練
d) 構造化等により生活環境を整える	絵カードによる予定の提示やパーティションによる物理的構造化による整え。	<ul style="list-style-type: none"> • レクリエーションや外出時の社会活動の実施 • 自立活動への支援

運動・感覚



ねらい

- 姿勢と運動・動作の向上
- 姿勢と運動・動作の補助的手段
- 保有する感覚の総合的な活用



	支援内容	実例場面
a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る	<ul style="list-style-type: none"> • 感覚遊び・ごっこ遊び • トランポリン
b) 保有する感覚の活用	保有する視覚、感覚、触覚等の感覚を十分に活用できるように遊びなどを通して支援する。	<ul style="list-style-type: none"> • バランスボール • ストレッチ、ヨガ体操 • 遊具遊び・お散歩
c) 感覚の補助および代行手段	保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするように眼鏡や補助機等の各種の補助機器を活用できるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> • プール • 日本サッカー協会公認コーチによる運動支援
d) 感覚の特性への対応	音声刺激に過敏な子どもへのイヤーマフの活用や環境調整の等の支援を行う。	※事業所によって異なる場合あり

認知・行動



ねらい

- 認知の発達と行動の習得
- 空間・時間、数等の概念形成の習得
- 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得



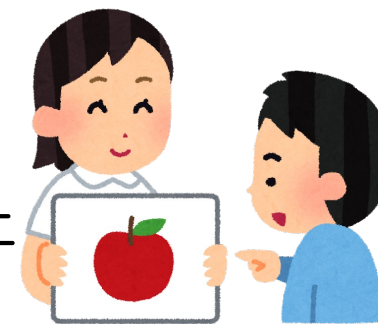
支援内容		実例場面
a) 感覚や認知の活用	視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援をする。	
b) 知覚から行動への認知過程の発達	環境から情報を習得し、そこから必要なメッセージを選択して、行動に繋げるという一連の認知過程の発達を支援する。	• プリント学習による概念の理解
c) 認知や行動の手掛かりとなる概念形成	物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間、時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。	• 教材、教具を活用した空間把握や認知の形成
d) 数量・大小・色等の習得	数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。	• 創作活動
e) 認知の偏りへの対応	認知の特性を踏まえた上で、ご本人に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏りなどの個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援も行う。	• ボードゲーム等を活用した適切な行動形成 • ビジョントレーニング
f) 行動障害への予防及び対応	感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防や適切な行動への対応や支援を行う。	

言語・コミュニケーション



ねらい

- 言語の形成と活用
- 言語と受容と表出
- コミュニケーションの基礎的能力の向上
- コミュニケーション手段の選択の活用



支援内容		実例場面
a) 言語の形成と活用	具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけることにより、体系的な言語の習得、自発的な発生を促す支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> • 絵カード等による視覚支援 • カードを使った言語支援 • 個々に応じた読み書き支援 • 生活の中で起こる事柄に対するロールプレイングやソーシャルスキルトレーニング
b) 受容言語と表出言語の支援	話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えてを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。	
c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得	個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。	
d) 指さし、身振り、サイン等の活用	指さし、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思表示ができるように支援する。	
e) 読み書き能力の向上のための支援	発達障害のお子さんなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。	
f) コミュニケーション機器の活用	手作りのコミュニケーションボードでの意思表示を促す支援をする。	

人間関係・社会性



ねらい

- 他者との関わり（人間関係の形成）
- 自己の理解と行動の調整
- 仲間づくりと集団への参加



支援内容		実例場面
a) アタッチメント（愛着行動）の形成	人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> • ごっこ遊びや一人遊びや連合的な遊び • ルールの理解が深まる遊びや集団活動 • 自己肯定感や社会性を育む学習支援 • MOSによるPCスキルの支援 • 各種イベント等を通じた交流や外出 • レクリエーション活動
b) 模倣行動の支援	遊びなどを通して人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。	
c) 感覚運動遊びから象徴的遊びへの支援	感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、社会性を支援する。	
d) ひとり遊びから協同遊びへの支援	周囲に他のお子さんがいても無関心なひとり遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊びや役割分担をしたり、ルールを守って遊び共同遊びなどを通して、社会性の発達を支援する。	
e) 自己の理解とコントロールのため支援	大人を介在して自分のできること、出来ないことなど自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情緒の安定・調整ができるように支援する。	
f) 集団参加への支援	集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援する。	